

音の多彩さ、美しさに感動 - 徳永延生 / 有生による連盟研修会

吉村則次



2022年5月15日、クロマチック・ハーモニカをテーマにした研修会が開催された。講師は、徳永延生氏、当連盟特別顧問。

世界に多くのクロマチック・ハーモニカのジャズ奏者がおられますが、同氏がこの分野では世界トップのかたの一人であることには疑いがないと私は思っており、同氏を当連盟の特別顧問に迎えていることを誇りに思っていますが、今回講習を聞いて、同氏の素晴らしさを再認識することになりました。

同氏が、クロマチック・ハーモニカに魅せられたのは、森本恵夫（よしお）さんのカルメン・マキの「時には母のない子のように」の伴奏での、クロマチック・ハーモニカの腹式ビブラートの音だったそうです。まずクロマチック・ハーモニカを説明し、デモンストレーションをしながら、クロマチック・ハーモニカの、徳永サウンドと呼ばれる独特な奏法を説明されました。それは次のようなものでした。

- ビブラート奏法　　ワウワウ
ワウワウ
- ベンド奏法　音を途中で、あるいは出だして、あるいは終わりに、幾分低くする奏法
- ビブラート　音程（高さ）の変化のビブラート　音量の変化のビブラート
- トレモロ奏法　複音ハーモニカにおけるマンドリン奏法
レロレロレロレロ
- サブトーン奏法　　スッスッ
スッ
- フラッター奏法（巻き舌奏法）
ブルルルルル
- グロー奏法　「のど」からのゲーという低いうなり声をハーモニカに重ねて入れる
- オクターブ奏法、等

デモンストレーションとして演奏された曲は、次の通りであった。

「荒城の月」（複音ハーモニカも使用）、「パリは燃えているか」（加古隆作曲、NHK映像の世紀テーマ曲）、「ハナミズキ」（録音された2nd Part を使ったデュエット）、「中国地方の子守唄」（スズキが製作しているバス・クロマチック・ハーモニカをデモ）、「エリーゼのために」、「スペイン」、「防人の詩」（さきもりのうた）さだまさし作曲、「ひまわり」、「イパネマの娘」、「マスカレード」「褐色のブルース」（映画「墓につばをかける」のテーマ曲）等12曲

質疑応答では、次のような質問が出され、丁寧に説明されていた。

- 複音ハーモニカで、ビブラートはどうして出すのか



吹上理事長より挨拶と講師紹介

- 「パリは燃えているか」のような曲の伴奏（カラオケ）は、どのようにして手に入れるのか
- リード楽器は、あえて意図してベンドしなくても、強く吹くと音程が下がり、軽く吹くと音程が上がるのではないのか
- スライド・レバーが、すぐ動かなくなるが、対処法は
- リードそのものが、つまることがあるが、原因は何か
- グロー奏法では、その音と同じ高さの音を喉で入れるのか 回答は、Noであった。
- 音の小さなかたがおられるが、どのようにしたらいいか 回答は、マイクを使えでした。
（弱い、小さな音は、いくらマイクを使って大きくしても、弱い音が力強い音になる訳ではなく、やはり、マイク等に頼らずに、もともと、ある程度の力強い音を出す必要があるのではないかと私は思いました。）
- バス・クロマチックに、特別な吹き方があるのですか。

徳永延生さんの音の出し方に興味を示されたか

たが多かったようで、持って来られた同氏のレッスン書、カラオケ付き楽譜本は全部売り切れとなっていた。

本日の講師は、徳永延生氏と同氏子息の徳永有生氏として会報上で案内されていたが、有生氏は健康上の理由で欠席となり、徳永延生氏一人での研修となった。したがって、二重奏は聞けないことになり、我々も残念であった。

徳永延生氏も、演奏や話をしながら、一人でPAの調整や、伴奏をかけるためのパソコンの操作も、しなければならなかったし、予定していた曲目の変更をせざるを得なくなったりしたり等で、やりにくくなっていたことと思われた。

聞くところによると、当連盟の研修会の会場として長いこと利用させていただいた「愛日会館」が、都合により、今回限りで使えなくなったとのこと。私も、この会場での多くの研修会に参加させていただいたので、一抹の寂しさを感じながら、感謝の気持ちを持って会場を出ました。

